

# ふらべじ

Flower & Vegetable

Vol.14 2000  
11.20

ななかまどの号

発行 北海道立 花・野菜技術センター



## スターチス・シヌアータ

*Limonium sinuatum* Mill.

イソマツ科 和名：ハナハマサジ

属名 (Limonium) はギリシャ語の leimon (草原の意) に由来し、本属のいくつかの種が潮のさす沼地、海岸などに原生することにちなんだものです。スターチス (Statice) とはリンネが付けた属名ですが、現在植物学的にはリモニウム属に分類されます。地中海沿岸地域原産。半耐寒性の多年草ですが、積雪下では越冬しないので一年草として扱います。本道の花き生産ブームの火付け役となった品目の一つです。



好天にめぐまれ早朝から多数の市民・生産者がつめかけた庁舎前庭会場



講師から直接手ほどきを受けて納得。実習は順番待ちのにぎわい(フラワー・アレンジメント教室)。



いつまでも色鮮やかー不思議な押し花づくりに夢中です(押し花教室)。



苗当てクイズ。20種類の苗を用意しました。全問正解者も出ました(野菜科)。



ツタンカーメン王の墓から出てきたエンドウ豆の子孫。とても珍しいものなんですよ(植物遺伝資源センター)。

公開デー 2000 は、植物遺伝資源センターとの共催で8月29日に開催いたしました。当日は天候にも恵まれ、約600人の来客をいただき盛況の中で終了することができました。

催し物は、恒例となっている試験成果の展示、圃場参観、病虫害相談、土の診断や、フラワーアレンジメント教室、押し花教室のほか、北海道種苗協同組合のご協力を頂いた花と野菜の種苗展示など行い好評でした。今年は新しい企画として、新技術を当センターの圃場で実際に見ていただく「花・野菜新技術フィールドセミナー」を開き、農家・指導者への技術紹介も行いました。



作物の栄養状態や土を診断して、畑・ハウスや家庭菜園の施肥法をアドバイス(園芸環境科)。



害虫を顕微鏡で観察してビックリ(花と野菜の病虫害診断コーナー)。



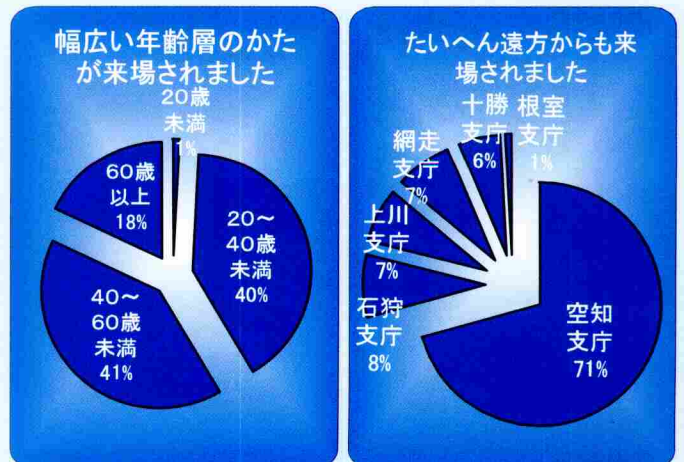
子供たちも興味津々。カボチャの食べ比べにチャレンジ(種苗会社の展示・試食コーナー)。



ガーデニング、鉢花の手入れ、など日頃の疑問にズバリ即答(花の相談コーナー)。



低コストの機械化で少しでも作業効率を上げたい！と熱心に質問(フィールド・セミナー：移植機、マルチ・灌水資材、養液栽培施設の展示と実演)。



(来場者のうちの116名のかたからのアンケート結果より)

平成 12 年度総合技術研修を受講して

倉知修平さん(岩見沢市)



自家で栽培している作物のことは多少知ってはいたものの、その他の作物についてはほとんどわからない状態でしたが、水稲中心の経営から野菜栽培を取り入れるために受講しました。さまざまな品目を播種から収穫まで、そしてその間の栽培管理を学ぶことができました。これから農業経営を行っていく上で必ず役立つと思います。また、視察研修では優良農家、試験場、種苗会社、市場等を視察し、今まで家にいただけでは見えてこなかった問題点に気が付くことができました。また、今後の品目・品種の選定の参考となりました。

さまざまな場所から来ている研修生と共に生活し、学び、遊んだことで良い仲間を作ることができました。今後は互いに情報交換をしていきたいです。

飯野 剛さん(余市町)



私の家では、果樹主体の経営をしています。以前から野菜を経営の中に取り入れたいと考えていたので、野菜栽培の基礎を学ぶため受講しました。はじめの頃はわからないことも多かったのですが、野菜の基本的な栽培技術、病虫害防除技術などを研究員や専門技術員の方々より親切に指導していただき、また多くの作物を品種やマルチなどの比較をしながら栽培できたことは今後の経営に非常に役立つと思います。これから、ここでの経験を生かしてがんばっていきたいです。

工藤範幸さん(滝川市)



私は、Uターン就農者のため、実際に栽培をしていてわからないことや疑問に思うことがたくさんあり、花や野菜の栽培について多くの知識を得ようと研修に参加しました。研修期間中は、見たこともなかった花や野菜に触れ、栽培したことによって視野が広がり、今後の農業経営に非常に役立つことと考えています。また、講義や実習などを通して研究員や専門技術員の方々から直接指導していただいたことは貴重な経験であるし、大きな財産となっています。半年間の研修を振り返ってみると長いようで短かったですが非常に有意義に過ごせた半年間でした。

道外からの研修生より

長内秀揮さん(青森県)



こんにちは。私は、8月～9月までの間、花きの研修で花・野菜技術センターにお世話になりました。今年から普及員になったばかりの私は、研修に来た時、技術的なことはおろか花の名前すら分からないレベルでした。そこで、広く浅く花の知識を習得することを基本に研修にのぞみました。実作業を通じて様々な花に触れることができたほか、多くの産地を視察させていただき、夏季冷涼な気象条件を活かした北海道の花き生産を垣間見ることができたと思っています(木造地域農業改良普及センター)。

澁谷まどかさん(岩手県)



9月1日から10月31日まで、花きの専門技術を習得するため、2ヶ月間の普及職員国内留学研修を受けました。花き科にて実習や現地視察を行い、花き生産先進地である北海道の花き生産の状況、先進技術や最新情報などを知ることが出来ました。岩手県での花き生産においては、切花栽培面積のうち70%以上をりんどうが占めており、産地化がなされています。しかし、他の品目については、まだまだ技術が確立されていません。今後は、岩手県での花き栽培技術の向上と産地化を図っていきたいと思っています(水沢農業改良普及センター)。

平成 13 年度研修事業の詳細については、ホームページをご覧ください。

北海道立 花・野菜技術センター

〒 073-0026 北海道滝川市東滝川 735 番地  
Tel 0125-28-2800 FAX 0125-28-2299

<http://www.agri.pref.hokkaido.jp/hanayasai/center.html>  
E-mail hana\_yasai@agri.pref.hokkaido.jp

編集後記@ふらべは発行され次第、当センターのホームページにも掲載しております。ここ何号か滞っておりましたので、この号を機会に何とか(J.F.)